

令和2年度 第1回長野市林業振興審議会 概要

日 時：令和2年7月28日（火）午前10時から午前12時まで

場 所：長野市ふれあい福祉センター4階 3会議室

出席者：委員14名、事務局7名 計21名

次 第：1 開会

2 挨拶

3 委嘱

4 自己紹介

5 会長・副会長の選任

6 議事

1 森林環境譲与税事業について

(1) 森林経営管理事業について

(2) 森林づくり・活用事業について

(3) 森林とふれあい体験事業について

2 (仮称)長野市森林整備ビジョンについて

3 その他

7 その他

8 閉会

議事（概要）

議題1 森林環境譲与税事業について

資料1-1、1-2、1-3、1-4に基づき事務局から説明

委員

資料1-2の意向調査のやり方について、以前は地区を決めて随時森林所有者を洗い出すということだった。今回、スピードが大事ということで全戸配布する方針にするということで、スピードは出るが意欲のない方はアンケートの回答をしないのではないか。経営管理は、今まで出来なかった場所をやるというのがスタンダードであるが、意欲のある所有者の土地からやるということか。また、意欲のある方は今も事業者に委託しており、そういった方々に意向調査が行くと混乱が生じないか心配。

事務局

意欲がある方から先に回答をされるということについて、現在長野市に相談があるのは逆の方で、「管理のできない、やめたいので長野市で管理をしてくれないか」というパタ

ーンが多い。そのため、この制度を利用したい方が利用できるような体制を作るには広報で全戸配布したい。回答の有無は別にしても、長野市に管理を委託することができる制度が必要だと考えている。

また、今現在、事業をされている森林所有者さんにも意向調査がいつてしまうことについては、経営計画や施業履歴があり、継続して同じ事業体でやってもらう話になるので、特に混乱は生じないと考えている。

委員

今ある意向調査の様式（案）は内容が細かく記載しているが、もっと漠然とした形のアンケートを実施するイメージか。

事務局

資料 1-2 の 3 ページの様式に近いものになっているが、通知する文章については、もう少し全戸配布向けに考えなくてはならないと思っている。特にアンケート調査を実施済みの地区があるのでそこについては、これまでのアンケートとの兼ね合いなども考えている。

委員

現在のアンケート様式に書いてある森林の情報については何も記載せず、所有者に記入していただくと先ほどの説明にあったが、森林を所有していると分かっている方がアンケートに記入して、「森林を管理できない・委託したい」という森林所有者の情報をつかみたいということか。

事務局

はい。

議長

どの程度集まるか見込みのようなものはあるか。

事務局

あと追加で、今回広報で配るといような方法を検討しているが、この制度自体、周知が非常にできていない。市町村からの意向調査をもってという形のものもありますが、森林所有者からの申し出という形もこの制度に織り込まれているので、このような制度が始まっているという広報をしながら調査を進め、一回だけで終わりではなく毎年、広報に掲載を続けていきたいと思っています。また、今回の調査では市内在住の方のみが対象になります。それ以外の市外・県外については、こちらの案（資料 1-2）にある形で準備ができ次第、意

向調査を進めていく。市内の方についても、広報を見ても見ない状態で終わってしまう方もおられると思うので、それについては補完するような形で調査を進めていきたい。まずは一度、広報をもって周知しながら意向調査を進めていきたい。固定資産税台帳上では、市内にいる所有者として住んでおられる方が全体の6割から7割はいるという状況。意向調査を進めていく中で、結果を見ながら次のことを考えていく。

議長

広報で知らせるのは決して悪い手ではないと思う。今やっている調査と並行してやっていかないとなかなか進まないということで理解してよろしいか。

事務局

当然、補完的なことも進めていく必要があると思っているので、この広報をやってそれで全てが終わりという形にはならない。

議長

答えてくれない方が実は問題で、この事業の一番重要な対象になってくるだろうと思う。表から攻めるか裏から攻めるか、表裏両方から攻めるかそこは工夫して是非やっていただければ。いずれにしても大変な事業であり、単に一つのやり方だけですべてを明らかにできるということは難しい。色々工夫してやっていくことがよいと思う。長野市は市町村合併で非常に大きくなって、大変な仕事だろうと以前から思っている。スピード感をもってやるといってもどれくらいかかるか、なかなか大変かと思うので、そういった意味では少しスピードアップさせるということで広報を使っていくのは手かもしれない。

委員

優先地域を対象に令和元年にも意向調査をしたが、市の方に移管したい、やって欲しいという希望は優先地域の範疇ではなく、長野市民全体の森林所有者からそういった声があがっているということか。最初にやった中で自分で森林整備をやりたいという方よりも、今放ってあるところが多いわけなので森林整備をやりたいという方が多かったために長野市全体で意向調査を先行した方がよいということか。やり方とすれば、点からいくよりも本当は面にしたほうが面積も進んでいくし、効率的にもよいのでは。全体を抽出した中で、どこを優先するのか、どこが隣接しているのか、どこの辺を中心に働きかけて広めにやったらいいのか、など、結局後での収集に手間をかけないと、うまく整備が進んでいかないのではないかと思う。先日も、税金の使い方が今はむしろ森林整備に使われるよりも、例えば危険木処理などに関わることへの予算の執行が多いと新聞に載っていた。所有者が、山を持っていることを知ってはいるが、その山に行ったことはないという人が増えている中で、全体をやりながら出てこないところにまた働きかけたり、意向調査をしていくということはや

り最初に9、10年かけてやるというような話があったが、結局その辺に行き着いていくのではないかと思う。

事務局

最初に面でつぶしていくというのも、もちろん良い方法だが、それをやると長野市に森林管理を委託したい人がいたとしても、おそらく20年では終わらないスパンになると思う。20年後までこの制度があるかは分からないところもあり、長野市内の方、全ての森林所有者に平等に行うのは広報で行う以外に方法がないのではないかと考えた。

議長

従来行ってきたものにも変わる方法ではないということによいか。今までやっていることも続けながら、時間的な問題もあるので全体をざっくり把握する上では一つの手段として行い、それを通じて皆さんに意識を持ってもらう広報の一環としてやっていくのであればいいと思う。一番心配されているのは、現行のやり方から変えてしまうのかということなのでその辺を明確にご返答いただければ。

事務局

従来の方法も並行して行う必要もあると考えている。変わるものではない。

委員

一回整理すると、まず広報で市民に制度などを周知し、森林整備を任せたいという人を洗い出すというのもやりつつ、ある程度優先順位を決めながら面的に進めるということによろしいか。

事務局

はい。

委員

あとはアンケートの結果を踏まえて追加したり、広めていくという方法、もう一点は以前聞いた話だと新たな市の事業ができたので所有者からの意向を踏まえて協定を組んでやっていく方法もあると思う。まとめると、一つは事業者が取りまとめて協定したところを優先的に整備していく、もう一つは優先的な場所を決めて面的に洗い出しをしながら決めていく、さらにもう一つは新しい方法として広く周知をして事業者任せたいという人を早めに把握してその山を次のバージョンでやる方法に変えていくという三つの方法によいか。

事務局

森林管理制度は、意向調査したものだけがその補助金の対象ではないので、事業体の今まで進めていただいたものも、新しい森林経営管理制度の中に入っていく森林として考えている。

委員

長野市は広いので、結構な広範囲でたくさん各地から要望が来たときに、それを実際にまわしていけるのか、受け入れられるのかという心配がある。

事務局

意向調査の回答をされた所有者に関しては、何らかの手段で一度返答をして、意向調査結果を入力して、意向調査を承りましたので「長野市で事業を進めますが少し時間はかかるかもしれません」という形で返信しようとは思っている。その中で事業体に割り振っていき、どうしてもペースが遅いようであれば、何らかの形で、また所有者の方には通知をお送りしなくてはいけないと思っている。

議長

従来やられている面的でおさえてきた所というのは、従来通りこれからも続けていくということでもよろしいか。今日の話の中ではそれに加えて、広報を使って広く全体に広報しながら、全部は把握できないけれども、取れるだけのデータはとって活用していく新しい事業だとみてよいか。

事務局

はい。

議長

いつぐらいから広報にあげる予定か。

事務局

現在の案では、来年度のお盆くらいにアンケートを送れたらと考えている。広報を出すにあたって、市内で18万件くらいの部数を作らなければならない、またそれを仕分けしなければならず、全て委託で行う状況になる。今年度、その予算がございませんので、来年度のお盆の人が集まる時期に周知をするために準備を進めていく予定で広報の配布を考えている。従来から面的にピンポイントで行うというのも、今色々調査を進めているので、少しずつ進めていきたいと思う。

委員

アンケート対象者等の調査の部分で、調査対象者の絞り込みの実施をされていたと思うが、財産区有林も除外されている。長野市の財産区有林はみんな手の行き届いた財産区ということでもいいのか。

事務局

この譲与税に関しては私有林、個人の共有地、地区の区有林、集落有林などが対象であり、市町村で管理している公有林や、財産区有林、生産森林組合有林、こちらについては森林環境譲与税の対象外という位置づけになっているため、この絞り込みの中では対象外とさせていただいている。森林環境譲与税を使うにあたって、どうしても使える森林が制約されており、決して財産区が全部整備できているかという話ではない。財産区有林については他の補助事業等を活用して整備を進めて頂きたい。

委員

資料 1-3 で 13 ページのところのカラマツヤツバキクイムシという記載があり、全県的にかなり分布しているような話を聞く。実際に長野市あたりはかなり分布しているのか、あるいはこれがもし分布していた場合に、非常に損害がでる可能性があるのか。特に間伐した時に伐倒したものを現地に放置すると被害がでる可能性があるという報告もあり、これが松の材線虫のように拡大したら嫌だなと思ったので、お分かりになれば教えて頂きたい。

事務局

長野市に関しましては、カツラマルカイガラムシについては何か所か出ていたが、終息している様子。カラマツヤツバキクイムシについては、一昨年くらいから飯綱高原で出ていて結構木が枯れたが、今年についてはそれほど拡大している様子はない。対策としては市としてもくん蒸処理をしたが、これからどう広がっていくかは予測できない。

議長

カラマツヤツバキクイムシは、長野県に来てからはまだ見ていない。北海道十勝は、あれだけの面積なのでカラマツヤツバキクイムシはそこそこ出る。カラマツヤツバキクイムシは形成層を食べていくので、枯れるということも当然あるが、しっかり伐倒処理をして殺虫剤をやっておくと、そんなに爆発的に一気にカラマツヤツバキクイムシでカラマツ林が全滅してしまうというのは北海道でも見ていない。でもしっかり処理を行わないと虫というのは分からないので、しっかりやっていく必要はあると思っている。

委員

たまに強度間伐をしたところで出た例があつて、県の林業センターでも見ているが、伐倒

処理しないで広がらなかった例もあれば、適切に伐倒をすると終息するという例もある。

議長

面でたくさん出るわけではなく、単木的に出たり2本固まって出たりする感じで、クラスターにならないようにちゃんとやっておけば、比較的静かに終息する。

委員

資料1-3にある長野市の森林づくり活用事業補助金は、予算はいくらで、実際にいくら活用されているか。

事務局

補助事業については今年から始まったという形で、予算規模については資料1-1の1ページの2番の所で約1,000万の予算で、まだまだ補助メニューも少ない中で、一応400万、500万の中で概ね使っていたという状況ではある。今年はこの制度に変えて、色々な所で説明会をやったり周知はさせていただいているため、やっと今大体動き始めたという状況ではあるが、今後また周知を進めて新たな管理制度下でまた色々なものができるようになってくると、また事業量を増やしていけるのではないか思っている。

議題2（仮称）長野市森林整備ビジョンについて

事務局

資料2に基づき説明

議長

独自というのは分かるが、その独自なものが必要なのか。上の方に第5次総合計画があって、長野市森林整備計画があって、それと並列する形で個別計画として市独自の長野市森林整備ビジョンがある。中身の説明は大体あるのですけれども、これがあることの意義みたいなものをご説明いただけたら。

事務局

長野市の林業行政としてそれぞれの事業での目的、数値目標などはあるが、全体を統合したものがなかった。林道なり間伐なり後継者育成なりのそれぞれの事業の全体を統括するような計画があった方が事業が進められやすいだろうということで、ビジョンの策定をするような運びとなった。

議長

なんとなくこう書かれてしまうと、一番下位の計画かと思われてしまう。そうすると、細かい個別のことを規定しているのかなと思ったらそうではない。むしろスケール的には森林整備計画で上位にくるくらいの総合性を持たせるということで理解してよろしいか。こういった性質のものがあることによって、長野市の森林のこれからの管理・運営にこれだけの寄与ができるという説明が欲しい。何のためにやるのか。それによって目次が変わってくるのではないかと思う。

事務局

こちらについては、具体的な数値目標をもって経営管理制度に活かしていこうという考え。

議長

具体的な数値目標を作っていく、先ほど言ったものを総合化していくという話とはどう繋がるのか。個々の数値化したものを分類して並べるとのことか。このビジョンの位置づけが問題。全体に対しての位置づけは書いてあるが、これでは分からないので、位置づけを理解できない、今日初めて資料を見る委員さんも多いので、そこを丁寧に、これがあることによってどういった効果が期待できるのかということを知りたい。数値が具体的に出てるというご回答だが、それがあることによって、どうそれが機能するのかということまでご説明いただきたい。

事務局

数値があることによって、例えば長野市の間伐補助金で、その予算規模がどれくらいなのか、あと林業者を育成するのにどれくらい林業者が足りないのか、林道などを整備するのにあとどれくらい開ければいいのかというのが具体的な数字になってくるので、それをもってして長野市の計画を見直して、という基本的な数字を出そうという内容。

議長

わかりました。そういった計画だということで、かなり森林整備というと一般的に思い浮かべるのは、天然林であろうが二次林であろうが全部含めた、というイメージになりがちだが、どちらかというと林業的な側面を強く持った整備ビジョンということでよろしいか。

事務局

人工林も天然林も考えていないわけではないが、両方含めて林業的に考えている。

議長

人工林メインだと色々な計画が既にある。そうではなくて、長野市が独自で立てる意義は何なのかというところが見えなかった。

委員

色々な市町村で、独自のビジョンのようなものを持っていて、市の森林整備計画というのは、国、全国で地域の流域単位、その下にある市町村ごとの整備計画、それに基づいてですね、例えば事業体などが作る経営計画という流れで、それに則していないと駄目だという計画制度上のものなので、ある程度その市独自の色を出しづらい。なので、こういった森作りをしていこうよというのをよく指針的に作る市町村も結構ある。この時期で大切なのが森林経営管理制度、森林環境譲与税で、それをどう活用していくのかという実施方針的なもの、それを明らかにしなければいけないというところがある。そのビジョンの位置づけが、計画しているものとは別のものというのは分かるが、それが市民の皆さんに示す森作りはこうやっていくという指針的なものなのか、経営管理制度、森林環境譲与税をこうやって使っていく、という市の説明責任を果たすべき方針なのか、どちらの区分、色を強くしたいのか教えてほしい。

事務局

両方強くしていきたい。

委員

林業的に強いと言ったので、森林環境譲与税の使い方の方がシフトが大きいのかなとちょっと思った。それも含めつつ担い手育成だとか、そういったものもあると思うし、どのくらいの事業規模が必要なのかということもあると思うので、市のやっていく方針の基ということでもよろしいか。

事務局

はい。

議長

ビジョンを示す、ある意味その長野市の森林、これからどういった方向にもっていけばいいのか。ベクトルを示す、ということだともうちょっと概念的な話が最初にくるべきなのではないか。どちらかというところから計画期間から始まると、マニュアル作りしているのかなと思ってしまう。それがビジョンなのかというところが気になった。

事務局

長野市の中で主伐を何ヘクタールやって、そのためには苗木が何本必要で、下刈りに作業

員が何人必要か、というのは非常に大切。

議長

であるならば、タイトルとの不整合を感じる。長野市森林整備ビジョンという話になるとビジョンですので、要するに将来像をイメージするものだと思う。

委員

先程の話だと、来年のお盆頃に全戸に向けて広報で意識高めていただくとのこと。「今、長野市の森林、森ってどうなのかな」というのを持っている人持っていない人に関わらず一応どういう所にあるよということ、そういう山を市民の皆さんにこういう風にしていきましょうというのが前段階にあって、それではじめて五カ年計画ではどういう方向に行きますよ、実際の予算の使い方はどういった風になっていきますよという、山に対して分かっている方はすぐこれでいいかもしれないが、広く市民の方達にもっと理解を深めていただいて、山に対してできることをやって欲しい、それが根底にあるのであれば、もうちょっと納得して、「自分で出来ることはこうじゃないか」という方向に誘導していけるのでは。

事務局

今のところ、仮称という形でビジョンという名称を使っているが、この辺は皆さんのご意見をいただいて、ある意味長野市としての森林はこういった形でいきたい、というもの織り込んでいかなければならない。また色々意見をいただく中で、また考えていかなければいけない部分かなと思う。

議長

先程のご回答で両方あるとおっしゃられていたが、そうであるならばやはり大きく2本柱にして、最初のところでビジョン、方向性で、先ほどのその譲与税のことも含みながら、ざっくり一般の方も長野市森林が今どういった状況にあって、今後それをどういう方向に整備していこうかというベクトルを示すということがまず最初にあって、それ以降については、細部設計みたいな感じになってきて、具体的にはこういった技術があるんだ、みたいな。一緒に入れてしまうと、中々一般の人は読んでもビジョンというのが中々イメージしにくいと思うので、それはちゃんと分けてやったらいかかなと思う。

委員

そこは分けて、そこは伝わりやすい、分かりやすいようにした方がいいかなと思う。特に税金ということも今回意識が高くなっているため、森林所有者ではない人も税負担をしながら参加しているとか、協力しているというようなご理解も重要な時期になってきていると今まで以上に思っている。そういった意味で市民の皆さんの参加だとか利用のされ方、地

球温暖化の貢献とか防災とか市民の皆さんが考える森林について長野市はどう考えているのかという部分も、先程のビジョン、将来像の中では触れておいた方がいい。構成は工夫する必要があると思うが、やはり森林のビジョンというとそういったものも触れておいてもらって、それは別の政策なり別の事業などで行うということは必要なのかもしれませんが、市民に対してわかりやすい広報の仕方も含めたビジョンがあっていただきたい。

委員

このビジョンの内容を見させていただいて、森林環境譲与税をどう使うかという面では分かりやすい方向性だと思う。ただ、森林というのは100年とか80年とか、そういう視点でも見る必要がある。長野市の森林ということを考えるのであればもう少し広範囲の天然林とかも含めた大きな視点で捉えて、その中の1つの大事な柱という扱いにすればすごく分かりやすいのではないか。

事務局

一般の方が分かりやすくというのがあるが、あまり、「天然林はこういう風にしていきましょう」というような確立的なビジョンにはしたくないと思っている。山の所有者それぞれに考えがあり、そういった色々な人の考えが出てくるようなざっくりしているけれども全体の中ではどのくらい木が伐れて、その木を伐りつつ公益的機能とかふれあいとかも大事だと思っている。そういったものも触れようとは思っているが、メインにすると新たなシステムの環境譲与税をどう使っていくかというときに、集約しないとあまりこのビジョンを作った意味がなく、いくら美しい楽しい山を作りましょうといってもそういった計画は空虚なもので、作っても意味がないと思う。

議長

こういった細かい数値に基づいた具体的な計画というのが、何のために必要か先に示してほしい。これだけ先に示されても一般の方は分からない。これを人工林に特化することによって相対として長野市の森林がこう良くなっていく、それが最初に見せるべきビジョン。技術だけ並べても、将来は見えない。技術というのは色々な技術があって選択される。技術者が、それをなぜ選択するのかというと、どういう山にしたいのかというビジョンがあって初めてそこで技術というのが選択されてくる。そういった立場で説明をしていかないと一般の方は分からない。これだけでは駄目。この技術を活かすためには裏付けがいる。林業をやっている方だったら分かりやすいのかもしれないが、それにしたってどういう方向を目指しているのか多分見えないと思う。やはりまず先にビジョンを示す、これをより近づける、そちらの方向に向かせるためには以下のような技術なりの指針が必要なのだという論法でいかないと。

委員

もしそういったお考えを事務局でお持ちであれば、タイトルを分けてもらって、森林のビジョンだったらビジョンとして指針的に作ればいいし、もしもおっしゃっているように具体的なことを踏み込みたいのであれば、タイトルも森林と言わず「林業振興経営ビジョン」などダイレクトな名前にしてもらうくらいのイメージでやらないといけない。ビジョン全体で統括して二部構成みたいなご提案をしたんですけれど、そこは分けた二冊にもらうのも手なのかと思います。それは明確にしておかないと、見る方が混乱する、ということは共通だと思う。

委員

森林整備、森づくりというのは、伐ったりとかするだけではなくて、活用も今回は触れているが、森としての活用に加えて、地域材の利用という観点も加えた方が良いかと思っています。それが広く市民の皆さんにも森づくりへの参加というところの中で、地域材を使うというのも一つの森づくりになる、ということを理解いただく、そういったところの中で具体的にどれくらいの整備が必要だとか、どれくらいの造材生産をするから今度どれくらい出てくるのか、そういった具体的な数値目標にも繋がってくると思うので、現状の森林がこうあるので将来、50年後、100年後にこういった森づくりにしたい、そのためにも整備もするし、活用もするし、それに関わる担い手も育成するし、それを活用しようというような幅広いビジョンになるのかなと思う。

事務局

ビジョンという背景ですが、森林環境譲与税がこれから、大体毎年1億5,000万ぐらい入ってくる。片やそれを使って行う事業については毎年単年度の予算を作っている。市も外部でもあるいは財政当局の方からも、今後どうやって貴重な税金を使っていくか、ある程度大きな方向性、中期的長期的にどういう風にお金を使っていくのかというような話もあり、そういったことを考えた経過もある。ただ、今のところ仮の案でお示したが、議長の方からご指摘いただいたようにビジョンという方向性を示すこと、あと我々考えている実施計画的なもの、数値目標を使って示す、それが今曖昧になっているところがあるので、ご意見参考にこれから案を作ってお示したいと思う。

議長

今ご回答いただきましたことを是非ご検討いただきたい。やはり長野市の市民の皆さんが「森林は大切だ、大事にしていこう」といったことが思えるようなビジョンを示していただければと思う。決して空虚なものではない。実のあるものとしてビジョン作れば、それは空虚なものとはならないのでお願いしたい。